



こーひーぶれいく

投稿

国際線の飛行機の中で放射線量を測定してみたたら

小山田 日吉丸

Oyamada Hiyoshimaru

先日、フランスからの帰りに手持ちの計測器で放射線量を測定してみましたら以下のような結果が得られました。既にいろいろとデータは出ているものとは思いますが、私が出たデータをここに紹介させていただきます。

測定器：エステー(株)製 Air Counter S

東京でもパリでも地上では0.05 $\mu\text{Sv/h}$ という値が得られていました。

2017年10月17日20時40分ごろドゴール空港を離陸(JAL046便)

ほぼ1時間後 1.05~1.23 $\mu\text{Sv/h}$

ほぼ2時間後 1.09~1.12 $\mu\text{Sv/h}$

ほぼ3時間後 1.27~1.39 $\mu\text{Sv/h}$

ほぼ4時間後 1.20~1.56 $\mu\text{Sv/h}$

ほぼ9時間後 1.24~1.30 $\mu\text{Sv/h}$

という値でした。

私の手持ちの計測器での測定に関する限り、パリ東京間の国際便が飛ぶ高度では地上での20~30倍ほどの放射線量となりました。

臨床の第一線を引退し、いつの間にか20年以上も経ってしまい、「光陰矢のごとし」を実感しております。遠い遠い昔の話ですが、私はUFOに大変興味を持っていろいろな資料を集めていた時期がありました。それらの資料は昨年5月の転居の際にも処分することなく新しい手狭な住まいに運び込んでおります。その中には例えば「ソ連のUFO研究 F.Y. ジーゲリ著、伊藤清久、藤木伸三訳」もありますが、今回の結果を見て、宇宙人の生存などは無理な話なのかなとも思ったりしております。ところがその一方で、テレビで時々放映される、現代の知識では理解できない発光飛行物体を目にすると、とても不思議な気持ちになってしまうこのごろです。

大変私的なお話になってしまいますが、この度のフランス旅行は通常の旅行とは全く趣を異にしたも



ブルゴーニュ地方のブドー畑(ゴールデンヒル)をバックに

のでした。

実は、ここ数年私は体調を崩し、杖をついての生活が続いておりました。海外旅行など無理と思われる状態でしたが、あるとき家内が「歩かないで済むフランス旅行」というツアーを見つけ、どうだろうかと言ってきました。家内にとってはフランスは初めて訪れる国でしたので、いろいろ考えた末に参加することにしたというわけです。ツアーはパリ3泊、ディジョン2泊、リヨン3泊の10日間の予定で、参加人数は9名。その内8名が老人で、残りの1人は母親のケアで参加された50歳代の女性でした。ところが、老人8名の内4名がすべての空港で車椅子サービスを受けるという、はたから見たら全くのヨボヨボ老人グループのツアーで、椅子がついている杖を持参して参加した私もその車椅子サービスを受けた1人でした。

パリではエッフェル塔、凱旋門、モンマルトルの丘等々を回ったり、パリの郊外にある、ミレーの有名な絵「落ち穂拾い」の題材となった風景そのままのバルビゾン村を訪ねました。ミレーのアトリエでは、ゴッホがミレーの絵を手本にして似たような絵を描いていたことを初めて知りました。

パリからディジョンへはフランスの誇るTGVで移動しましたが、乗り心地は大変良好でした。日本の新幹線よりは小さめで、通路をはさんで2席ずつの構造でした。ディジョンに居る間にワインで有名なブルゴーニュ地方の、黄金に映える広大な葡萄畑(ゴールデンヒル/ブドーの葉が色づいた風景)を眺め、ワインをおいしく戴きました。

リオンは大変きれいな町に感じました。美食の町と言われているそうですが、私にとっては日本で食べるフランス料理の方が口に合うように感じました。

バスを降りての観光は椅子つき杖を携えての私には少々きつく、「歩かないで済む」観光旅行なんて存在しないことも分かりました。でも、家内が初めてのフランス旅行を元気に楽しんでくれたのが私にとっての救いでした。

(元癌研究会附属病院アイソトープ部長)